

# PV-Net News

第21号



PV-Net News第21号 2010年10月22日発行 ■発行人：藤井石根 ■編集人：都筑 建 ■発行所：NPO法人 太陽光発電所ネットワーク 〒113-0034文京区湯島1-9-10-202  
 ■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail: info@greenenergy.jp TEL: 03-5805-3577 ※記事および写真等の無断転載は固くお断わりいたします。  
 ■インターネットでも情報をご覧いただけます。www.greenenergy.jp ■印刷：豊印刷(株) ■レイアウト・編集協力：八木澤晴子  
 ※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。  
 太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

## CONTENTS もくじ

### I 特集 2010年度総会報告

- ・第1部 議事の内容
- ・第2部 意見交換会
- ・通常総会を顧みてー藤井石根
- ・総会に参加して1ー北村陽子
- ・総会に参加して2ー溝田忠人

### 6 健全なPVの普及を求めて

～PV不具合実態調査と改善アドバイザーの記者会見報告～

### 10 PV-Net最前線

1. 太陽熱温水器の現実  
～私の実績を中心として～

### 11

2. ポストイン・ポストロック  
中間報告

### 12

3. 無視できない2011年度  
経産省概算要求予算

### 14 各地の発電量データと 太陽光発電所マップ

### 16 活動報告 地域の動き

### 22 理事会&部会報告

### 24 事務局からのお知らせ 活動カレンダー

## COLUMN コラム

### 5

生物多様性条約 COP10と  
太陽光発電の普及

### 11

九州事務所移転のお知らせ

### 12

PV健康診断専用会員＝  
インターネット会員創設について提案

### 13

「イオン 幸せの黄色いレシート  
キャンペーン」の紹介

### 21

PV-Net川柳 第16回

## 特集 2010年度 総会報告

第8回総会を東京駿河台の明治大学で開催しました。1年ぶりに会う人、初めて参加する人など多彩な顔ぶれが全国から集まり、これまでの経過と今後1年間の活動方針を討議しました。今年度の総会の特色は、昨年からはじめた交流をより本格的にするよう第2部のPV-Netのあり方について意見交換会を時間をとって行ったことです。会員同士の活発な意見交換が行われ、その熱気が総会終了後の懇親会に60名を越える参加となり、親交を重ねました。

### 総会の意義

2009年度は太陽光発電（以下PV）の岐路になる年でした。普及量世界一をヨーロッパ勢に抜かれ低迷していたPV業界が補助金の復活、固定買取義務制度（以下FIT）が新に追加となり一気に年間導入量が2.6倍に跳ね上がりました。産業としても社会現象としてもPVの動向が毎日大きく取り上げられ、将来を担う明るいものとして注目を浴びてきました。

しかし昨年度の活動方針のメインテーマ「賢いユーザの育成を図る」として、健全なPVの普及活動を行い、いたずらに浮かれることなくこれまでの健康診断相談活動や、グリーン電力証書事業による環境価値の実体化を図ってきました。そんな着実な活動が政府・政党・官庁・自治体・PVメーカーにも広く知られるようになり、その結果が本年3月29日NHK新番組「あさいち」最初の放送のテーマとしてPV-NetのPV不具合や訪問販売などへの警鐘が取り上げられ、2日間事務所の電話が鳴り続ける大きな反響を呼ぶ現象を作り出し

した。

認知度が高くなった分、責任も大きくなります。本総会はこのような周りの激しい動きのなかで市民・ユーザの代表的NPOとして今後の活動方針を決める重要な会合となりました。そんな中でPV-Netの根源的な活動である相談事業をメインにして各専門部が協力し、全体で進めることが確認されました。

また、外向けだけでなく全国ネットのPV-Netとしての組織のあり方、会員の拡大の進め方が、4年を一周期と考えるとちょうど3周年にはいることから見直しの必要な時期にさしかかっています。総会に出席する熱心な会員の皆さんで今後のあり方を互いに意見交換し、共有できる項目を1つでも増やす試みも求められています。第2部はそんな意味から取り組まれました。

総会の準備も、関東ブロックの世話人を中心に役割を分担して進めました。これまでの事務局主導から一歩抜きん出た総会運営となり、今後引き継がれていくものと期待されます。



### わが家も 太陽光発電

←朝日新聞社とPV-Netが協働で企画出版したPVの基礎から実用まで網羅した本です。PV-Netで取り扱っています(1,500円)。申し込みは事務局まで

## 第1部・議事の内容

7月24日、現在の会員総数2,224名、参加者72名、委任状491通、書面表決5通、合計568名となり、定足数を満たすことを確認し総会が開催されました。

### ■藤井石根代表理事あいさつ

気候の不順がさらに顕著となり、世界的にエネルギー資源が乏しくなる条件下、自然エネルギー利用に対する機運が高まり、日本でも太陽光発電（以下、PV）の普及が加速されているが、劣化の状況がわかりはじめ、一般の方に発信する役割をPV-Netは担っている。一方で、何かにつけ経済成長もNo.1にと猛進してきたが、地球上の資源は有限であり、みんながNo.1を目指して競争を繰り広げた場合どこまでもつのか懸念される。

最近中国は自然エネルギー利用に力をいれているが、日本も技術力を生かし、例えば、劣化が世界一進まないPVを開発出来れば、世界ブランドとなる。No.1よりオンリーワンになることに力を入れ、PV-Netは社会で役割を果たす団体としてますます力をつけていきたい。皆さん、力を合わせていきましょう、と呼びかけられました。

### ■来賓あいさつ：

#### 環境省小林事務次官

PV-Netは社会的に意義のある活動を展開され、業界や行政の間をつなぐ架け橋、中立的な唯一の存在、グリーン電力証書にも早くから取り組み、PVを導入された世帯のフォローアップなど、PV普及を草の根、現場で支える非常に重要な団体と捉えている。

国としても1990年比2020年までに温室効果ガスの排出量25%減を掲げ、2050年までに80%以上減も既定方針となっている。地球温暖化対策基本法案では、自然エネルギーの一次エネルギー供給量に閉

める割合を2020年までに10%と目標を掲げ、家庭用PVは最大で2,440kW、約1千万世帯分（2005年に対して21倍）のPV普及が期待される。9年目の活動に入り、全国のネットワークを生かして、ますますPVが進むよう活動に期待します、とあいさつされました。

### ■1号議案 2009年度活動報告

國井範彰理事より、昨年11月に導入された住宅用太陽光発電の余剰分固定価格制度の導入をはじめ、PVの普及をめぐる環境が急速に変化し、前年比2.6倍の導入など、大量普及が現実になったこの1年を振り返り、一方で、光だけでなく影の部分として施工トラブルや販売に伴うトラブルなど、太陽熱温水器の二の舞になりかねない危機感を抱きながら、具体的にやってきた活動について、二つの基本方針、「1. PVの大量普及に対応した活動と政策提言を行う」、「2. PVの環境価値の“見える化”と活用を図る」に基づく6つの行動指針（議案書p.1～p.12）にそって、説明がなされました。賛成多数で承認されました。

### ■2号議案 2009年度決算報告

吉永光伸理事より、会費、協賛金、広告収入が未達成な一方で、事業収入は100%を超え、寄付金収入が想定以上に順調でうれしい誤算もあり、また、各項目においてかなり節約した結果、借入金が0になったこと。未確定だった事業が総会後に確定し収支が拡大し、赤字を見込んでいたが黒字となり単年度では非常にいい形になったと説明されました。

会場からは、2009年度で終わった佐賀窓口業務やグリーン電力証書地域需要創出モデル事業の収支面での評価、関西事務局の管理費支出と活動実績、事業ごとに収支

決算を出してほしい、また理事会で確認を等の質問や意見が出されました。

個別の事業収支は資料が多く事務局で対応する、また理事会で確認することが確認されました（関西事務局の活動実績について4号議案説明時補足）。賛成大多数、保留1名、反対なしで承認されました。

### ■3号議案 活動方針案

田中東紀男理事から、大方針として「太陽光発電（以下、PV）ユーザー目線に立った組織作り」を提案。重点目標と課題として、1.相談活動の充実、2.省エネ活動の推進、3.PV-Green事業の継続と展開、4.組織および財政基盤の強化、5.データベースの充実、6.地方自治体との協働活動を視野に、の6つを柱にすえた活動について、当日の新聞に出た再生可能エネルギー買取制度も引用し、詳細に説明されました。

会場からは、設置から10年過ぎるPV設置者が増え始めるいま保険や保障等の問題に関するPV-Netの活動に期待、売電金額が倍額になり多くの人に負担をかけているのは非常に心苦しい、といった意見が出されました。

これから保障が切れる人はどんどん増えていく。それに対して、PV-Netとして保険制度を作るのはすぐには難しいのでは等の応答がなされました。保留、反対はなく、承認されました。

### ■4号議案 2010年度予算案

都筑建専務理事から、今年度の予算は非常に厳しい内容である、事業収入については不確定要素もあり、事務局経費は非常に厳しく抑え、センター活動費は事業にあった分配にし、事業活動費も抑え、PV-Greenはがんばらなくてはいけない旨が説明されました。環境省の発表を見る限りPV-Greenは残っていく、昨年度よりも大きく

事業拡大していきたいと説明されました。

会場からは、今年広告収入がないのはなぜか？ センター活動費と事業活動費の単位は？ などの質問があり、「広告収入はその他収入に含まれる」、「単位は千円」、と

の応答がなされました。賛成多数で承認されました。

### ■5号議案 定款改定

岸本康子理事より、第2条（事務所）2項の従たる事務所について、事業が一段落したことを受け佐賀事

## 第2部・意見交換会を行いました

ここ1～2年で太陽光発電（以下PV）は大量普及時代に突入しました。PVに関する情報は巷に溢れ、経済的な理由から導入を検討する人も増えています。

PV-Netは2003年の設立当初からPVの健全な普及を目指し、普及啓発活動を中心に中立的な情報発信を各地で行ってきましたが、大量普及が進む中、PV-Netの存在意義・活動の方向性が問われています。設置者が集まってつくる団体としてどんな活動が期待され、社会に果たすべき役割は何かを今一度考え直すために、総会に参加された皆さんの声を伺いました。

### ●テーマ1

#### PV-Netに求めるものは何か？

まず、PV-Netに何を求めて会員になったのか、現在の社会状況を鑑み会員としてPV-Netに求めるものは何かを伺いました。

初期に設置した方々が10年保証の期限を迎える中、メンテナンスについて何らかのアクションをおこすべき、また海外製の太陽電池の輸入が多くなる中、日本の太陽電池は品質に重点をおいた開発をすべきで、PV-NetとしてはNo.1からオンリーワンへのあり方を推進する何らかの協力をしていくべきとの意見を多く頂きました。自身が設備メンテナンスを行った経験から、メーカーとユーザの交流会を積極的に開催することで、メンテナンス体制を進めていくことにPV-Netの意義を感じるという意見も頂きました。

### ●テーマ2

#### エネルギー政策についてどんなアクションを期待するか？

温暖化防止の観点から、国の政策では自然エネルギーとあわせて原子力発電も推進されています。自然エネルギーを推進する団体として、国のエネルギー政策についてどのような立場や見解を取るべきか、意見を伺いました。

原子力発電の推進については、「いい悪いではなく、必要だから存在している。いい生活をしたい、そのために多くの電気が必要となっている現状はみんなが支えている。自分自身が考えてできることから始めましょう」との提案に対して、PVを始めたきっかけが脱原発という方から多くの拍手が起りました。

また、PV普及政策の現状については経済性のみを重きをおいた政策はPVが投資の対象となってしまうことや、48円の買取価格の国民負担は、社会全体へ歪みを生じさせるのではないかなど、危惧する意見を頂きました。

最後に事務局長から、原子力は対立軸の鋭いテーマなのであまり触らないようにしていたが、避けては通れない。ただし、そのために組織ががたがたになるのは得策ではない。意見交換はぜひ必要だと思うが、ただ性急に結論を出すものではない、とのコメントが出されました。

### ●その他報告

第2部の時間を使ってPV-Net活

務所を閉じ、長野、愛知、大阪、福岡の4事務所を実態に合わせて追加する旨が説明され、定款の変更を提案されました。質疑はなく、決議の結果、承認されました。



動報告が行われました。

### ◎山口地域交流会立上（山口地域交流会代表 溝田忠人）

宇部市地球温暖化協議会（UNCCA）幹事会で山口地域交流会を立ち上げる方針を決定し、昨年11月から設立準備発起人会を進め、7月10日設立総会を開催した（7月24日臨時理事会で承認）。会員同士の情報交換を進め、専門的な立場で一般市民への情報発信等をしていきます。

### ◎港区高原学園跡地利用in小諸

#### （PV-Net小諸事務所 岡本一道）

小諸市にある港区の高原学園の跡地を利用し、PV-Net、オーガニックコットンを扱う（株）アバンティ、地元グループのこもろはす会議の3者で畑の再生、森林の再生、バイオマスエネルギー利用、井戸の確保など人間が暮らすために次世代の子ども達にひとつのモデルとして示していきける場をつくっていききたいと思います。

### ◎相模原おひさまサポーター

#### （神奈川地域交流会 相模原近隣グループ 北村陽子）

市民おひさま発電所の取組みを市の環境課と話し合いを進め、今年度は共同事業として実施する。市民共同発電所おひさまサポーターを募集中（1,000円の寄付から受付）！ エネルギーの地産池消まちづくりのために頑張っていきたい。

通常総会を顧みて

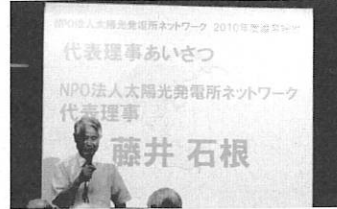
～代表理事 藤井石根～

PV-Netが誕生したのは2003年5月。早や7年もの歳月が流れた。創設期の3年間は某企業の財政的な支援もあって経理面での苦勞は然したるものではなかったが、その後は会の存続・維持に多大な苦勞と腐心を余儀なくされてきたことは周知のところである。当然、例年の決算報告に関わる収支計算所では必ずや「借入金」の項目が見えていたが、このたびは会員の方々の温かいご支援と会の運営に直接携わっておられるスタッフの献身的な努力もあって、経済的自立をしてから初めて年度末の収支計算書で「借入金収入ゼロ」の状況を達成させることができた。私個人としても初めて借り入れのための「印鑑証明書」の入手から解放され、内心ホッとしている。とはいえ今後の状況次第ではいつ状態が変わるか流動的であり気が抜けない。

PV-Netにとっての次なる重要課題は、今後社会的にどのような役割を果たし得るかであろう。国は

再生可能エネルギーに対する展望を必ずしも明確にしていない。具体的な指針も曖昧で、政策の一貫性も不十分である。RPSだのFITだのと状況が変わり、計量法問題等の予期せぬ課題も湧いてくるので、長い目で観た計画が立て難い状況は変わらない。当然、状況の変化で火傷をせぬようにと用心すれば、冒険的で新規性に富む立案もしにくくなる。昨年から今年にかけて太陽熱利用促進も視野に入れた協働作業をテーマに関係団体との話し合いも持たれたが、現在は一時休止の状況にある。話をより進展させるべき必要性は感じつつも今後の見通しが立たないことも大きな理由としてある。

そうした中で総会の3号議案であった2010年度の活動方針は大筋では時宜を得た適切な提案と評価できる。太陽光発電設置はその維持管理にあまり手間を要しない設備として代表的な存在であるが、設備機器である以上は、現実には設備の監視・管理をまったく怠る



ことは許されない。そのことを記者会見の形で実例をもって公にすることができたことは、PV-Netが果たした大きな成果の一つと言える。これに関連して今後、PV-Netが行うべき役割にはPV設備のセコムの役割分担が考えられ、相談室を中心とした組織部や普及広報部のさらなる活躍に期待するところが大きい。この役割はPV設備が普及拡大すればするほど、その作業量が大きくなることから、その対応を前向きに考えて進めておく必要がある。PV-Netとしては、PV設備のさらなる普及拡大を視野に入れてその対応を怠ることなく、適宜対処していくことが肝要である。総会当日の参加者との質疑応答でも傾聴に値する有益な発言も多々聞くことができた。これからは参考になるご意見やご要望をお寄せいただくことを、切に期待している。



出していてもいいし、そのまま外海に乗り出してひたすら遠くへ行ってしまうでもいいのでは。違う意見もあっていい、お陽さまはこの人には照るけど、この人は照らさないなんて小さいことは言いません。太陽光が縁でできたネットワークが、さまざまに広がっていくことを楽しんでいきたいと、総会に参加して思いました。

総会に参加して ～神奈川地域交流会世話人 北村陽子～

今年の総会は、私が総会司会をすることになってしまいました。総会にはほぼ毎年参加してきましたが、運営側に回ると見える景色が変わります。いつもは参加しているみなさんの後姿を見ながら、自分の考えや思いを心の中でつぶやいていましたが、今回は客観的に全体を見ることができました。

意見交換の部分ではPV-Netの方向性についてもいろいろな意見が出ました。PV-Netはいろいろな立場でいろいろな意見を持った人たちが「太陽光発電」というキーワードのもとに繋がっている団体です。それぞれの思いは大事にしながらも、いつも定款の目的の原

点に立ち返って、基本は崩してはいけないと思いました。

でも、PV-Net自体を太陽光発電をはじめとする自然エネルギーの普及という目的をもって社会に貢献していく母船とすれば、その船からいろいろなボートが漕ぎだされていいとは思っています。自然エネルギーの普及に限らず、今の世の中、地球環境、地球温暖化、原子力、平和、平等、貧困、市民力、地域づくり、心豊かで穏やかな暮らし…などなど考えるべきことはたくさんあります。それぞれの思いで漕ぎだしたボートは、たまに母船に立ち寄って元気を積み下ろしたり逆に充電してまた漕ぎ

総会に参加して

～山口地域交流会 溝田忠人～

今回会員として総会に初めて参加しました。まずは2010年7月10日に山口地域交流会（PVNY）が発足したことを報告。その後交流会にも参加し、熱心な討議を聞いて大変有意義な時間を過ごしました。以下に感想を述べます。

1. 藤井代表理事のお話

太陽光発電を設置後10年が経過し、メーカー保証の期限が切れる人が多くなり、装置の耐久性への関心が高まっています。中国などが自然エネルギーへの投資を加速させ、風力や太陽光発電などの生産にも力を入れており、日本のPV分野のもの作りの地位も脅かされています。日本は何事も1位でなければならぬという強迫観念で競争を激化させるのではなく、オンリーワンで行くべきではないか。太陽光発電では、20年以上の耐久性の技術開発により独自の道を行けば自ずと道が開けるのでは…。

以上、とても印象的なお話でした。この後同氏著の『エコ・エコノミー社会構築へ』（時潮社 2010年）を早速買って読みました。

2. 会員でもある来賓の小林光環境省事務次官の祝辞

PV-Netは、2,200名を超すユーザーを組織し、この分野では群を抜く規模のNPOです。家庭とメーカー、行政を結ぶ貴重な存在であり、存在価値が高まっています。自然エネルギーに関する日本の方針が固まりつつあり、2010年7月23日の新聞で発表されたとおり、全量買い取り制度と併存して（恐らく選択制で）太陽光発電の余剰電力買い取り制度は残ります。したがって「グリーン電力証書」の活用制度も存続します。今後1千万世帯に拡大し、世界に類を見ない日本のPV方式のためにPV-Netに期待します。

3. 議案の質疑応答

細かい点はメモしきれませんでした。しかし印象的だった質疑応答のいくつかと、交流会の内容について、以下に感想を述べます。

PVシステムも今や、劣化や耐用年数が関心事です。保険制度の構築に対する要望や、メンテナンスへの不安の声が多く聞かれました。

実は我が家のPVシステムも、昨夏に通算2年弱でダウン。地域でメンテナンスを完全にやり切る体制こそが、雇用を増やし、地域で経済を回すのだと思います。

神奈川PVさがみはらの「市民おひさま発電所を作りましょう」の報告は、市民から1口1,000円を募って太陽光発電所を作る、という運動です。これなら山口でも出来ませぬ。ただし、PVが遊休地や農地につくられて、投資・投機の対象になるのは困ります。日本は狭く、お太陽様を利用するのは植物が先輩です。植物（農業・林業など）に敬意を忘れては、PVの未来は無い。だからこそ屋根の上の日本式PVは価値があるのです。長野では「全学

校の屋根にPVを」という運動の成果を得ています。山梨では、水力発電もやりたいとの発言もありました（まだ協力は無いそう）。日本の地形・気候の特色を生かした水車の懐かしい風景を思い浮かべました。山口県は海に囲まれているので、潮流や波の利用もすすめたいと思います。

それから政策との関連で、原子力発電との関わりが発言が幾つかありました。しかし原発の賛否はいつでも微妙な議論になります。現実には30～40%の電力を依存しているものを議論の蚊帳の外に置かず、賛否大いに議論すべきです。山口県でも上関に作られようとしています。過疎地を活性化するために原発しか無いと考える住民を作り出し、それに関心を示さない都市住民が議論さえしないなら、日本はどうなるのでしょうか。過疎地にPVや風力発電を設置し、エネルギーを安く使えるシステムを作れば、過疎地も安全な食糧などの新しい基地として再生するでしょう。

以上、多くの同好の士を得た気持ちで、総会と交流会を終えました。残念ながら懇親会には出席できなかったのが心残りでした。

生物多様性条約「COP10」と太陽光発電の普及

生物多様性条約「COP10」が、マスコミで「里山保全」とか「地球生き物クラブ」のように特集され、生物の乱獲や絶滅危機の対策、生物資源と遺伝子組み換えや遺伝資源の保護がテーマの会議、という印象があります。

その一方でCOP10は南北問題で近代合理主義や科学至上主義、欧米の自然観と少数民族の固有の文化の否定、彼らの自然観とのせめぎ合いという主張もあります。資源利用の不公平問題では大航海時代に遡って正す場面もあるようです。

COP10のテーマはグローバリズム批判、地域の固有文化の破壊に対する問題、市場原理主義の否定、さまざまな貧困と医療・食料問題への早急な対



応です。COP10の問題解決あたって自然エネルギー利用は不可欠で、地産地消の太陽光発電は重要です。国家と企業利益のためだけの太陽光発電ではなく、世界の全ての地域で多様な生物が存続できるための利用形態を可能にするPVの民主的普及はどうしても必要ではないでしょうか。COP10にも地元中部地域交流会がPV-Netを代表して写真のポスターのような参加をしています。（中部地域交流会三浦悦夫）

# 健全な太陽光発電(PV)の普及を求めて

## ～PV不具合実態調査と改善アピールの記者会見を行いました～

太陽光発電所ネットワーク(PV-Net)は、設立以来会員の発電データを集め、検証(PV健康診断)し、その内容を会員へフィードバックする活動をしてきました。太陽光発電(PV)の素晴らしさや楽しさを感じ、高額にもかかわらず率先して導入してきたPV-Net会員の想いは、近隣の方々にも自分が得たPVの素晴らしさと喜びと正確な使い方を伝え分かち合おうというものです。この活動からさらに見えてきたものが、健全なPVのあり方です。これらを2010年度を中心テーマとして総会で確認しました。今回のマスコミ発表の基礎データは、産総研の加藤主任研究員との共同研究によるものです。

- 日 時：2010年7月23日(金)
- 場 所：環境省記者クラブ室(環境省)及びエネルギー記者会室(経団連会館)
- 会見担当者：藤井石根代表理事、都筑 建事務局長、伊藤麻紀事務局次長(相談室担当)  
(環境省では同時にTV東京の録画収録がされました)  
冒頭に簡単にPV-Netの活動紹介を行いました。

## 1 太陽光発電システムの実態の把握をするべき

### 1) 大量普及時代への突入が始まっていることの認識を強調

図1でもわかるとおり、昨年1月からの補助金の再開、11月からの固定買取義務制度が導入され、2009年度から急激に普及量が増加しています。普及量の9割以上を占める個人住宅用PVが、全国にはすでに60万件あり、2020年には530万件(4軒に1軒)以上になると予測され、その予測も上方修正されています。

本格的に大量普及してからの不具合の多発は、致命的な事態をもたらします。そうならないための

諸措置を施すには現時点が最後の機会であり、不具合の実態を確実に把握し、摘み取るべきと強調しました。

### 2) PVはメンテナンスフリー(故障しない)として販売奨励されている

例えば「メンテナンスフリーの製品です」(三菱重工)、「期待寿命20年です」(シャープ・三洋など)などと表記されており、販売設置事業者も積極的に販促語として多用してきました。大多数のPV設置者もメンテナンスフリーを信じて

導入を図ってきました。

### 3) 普及の急増に伴って苦情が多発

国民生活センターには図2のようにPVについて苦情が寄せられ、図3のとおり重層で複雑な流通構造が放置されたままです。

### 4) これまでの不具合調査

これまでもPVの故障状況の調査がされてきましたが、アンケート調査が中心でした。代表的なものを3つ紹介しました。今回の発表がいくつかの警告を踏まえている

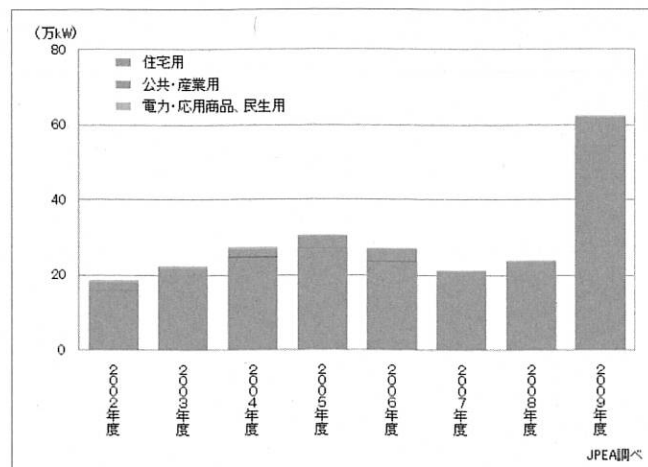


図1 国内のPV用途別普及の推移



図2 急増するPVの苦情相談件数 (出展 国民生活センター)

ことを示すためです。

調査A: NEDOの太陽光発電システム評価技術研究会の不具合調査報告(2001~04年)

最初の本格的な現場に基づいた不具合調査で、不具合の分類を試みたうえで分析がなされています。その分類は、

1. 「自然現象等による偶発的な現象」とは雷等による自然の異常気象によるPVトラブルを指します。
2. 「人為的事象」は工事ミス、部品の取り違いなど施工上の人間の関与によって引き起こされるトラブルを指します。
3. 「必然的事象」はPVモジュールの劣化やインバータのPC板部品寿命などによるトラブルを指します。
4. 「その他」は系統電圧が規格外になると逆潮流防止回路が働き、売電が不可能になるような運用上、制度上のトラブルを指します。また機器トラブル以外のクレームも若干あります。

と分類した上で故障率として16.9%(362サイト中)を示しています。

調査B: 2004年新エネルギー財団(NEF)の「平成15年度住宅用太陽光発電導入促進事業報告書」

住宅用PV補助金窓口を長年担当してきたNEFが2003年にまとめたもので、調査母数が5万件を越すものです。不具合発生報告件数4,960件、9.7%(51,000サイト)と報告しています。

調査C: 2005年新エネルギー財団(NEF)の「住宅用太陽光発電システム施工品質向上に関する調査報告書」(2006年)

施工上の課題のなかでメーカー、業者、設置者へそれぞれのアンケートと現地ヒアリングを実施していることを特色とした調査です。設置者の発電量に関する調査では◎不具合箇所はパワーコンディショナが一番多く約60%、太陽

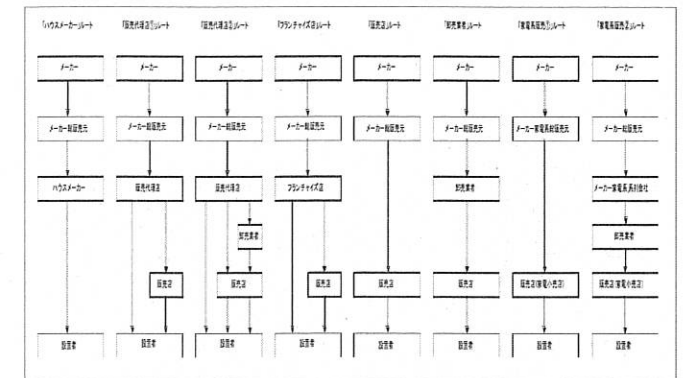


図3 複雑で重層したPV販売ルート

- 電池は11%程度
- ◎不具合発生時設置業者に連絡する場合は33%、メーカーに連絡する場合は50%
- ◎「不具合発生時すぐに対応してくれた」が67%。また対応状況について、「とても満足」が9%、「満足している」が50%

と、概ね良好な状況にあります。「期待したほど発電しない」と「説明されたほど発電しない」を合わせると48.3%と半分の設置者が不満を抱いていることを示している点は他の多くの調査との違いを示していますが、調査対象を不具合のあったものにした結果と思われる。この調査にはPV-Netも協力しています。

## 2 住宅用PVの故障状況についての調査内容

PV-NetではPV設置の会員が毎月の発電量を定期的にセンター事務局へ報告し、PV健康診断を行っています。この記録をベースに会員の設置時からのデータを加味して集計処理を行いました。さらにより具体的な事例としてシステムの部材交換・修理を実際行った事例に絞って集計処理を行いました。実調査がポイントです。

結果は故障率(実交換率)が30%を超えるものです。その内容を以下資料に沿って説明します。資料1~8を参照してください。資料1は調査対象の属性です。

A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社	その他	合計
240台 (50%)	85台 (18%)	55台 (11%)	32台 (7%)	21台 (4%)	12台 (2%)	12台 (2%)	26台 (5%)	483台

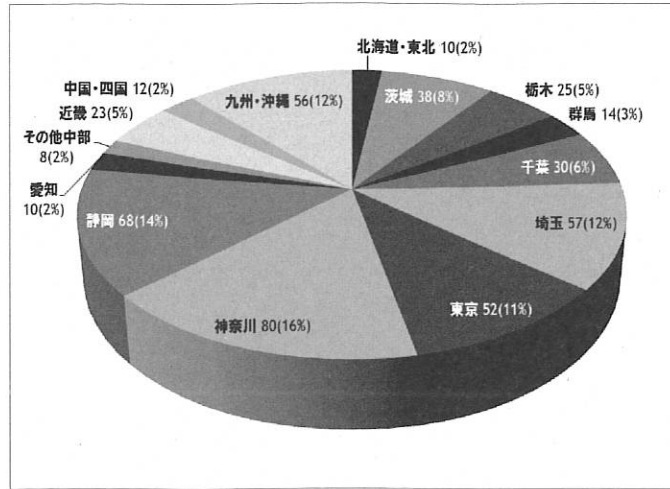
  

単結晶 Si	多結晶 Si	ヘテロ接合 Si	薄膜 Si	不明	合計
91台 (19%)	323台 (67%)	47台 (10%)	18台 (4%)	4台 (1%)	483台

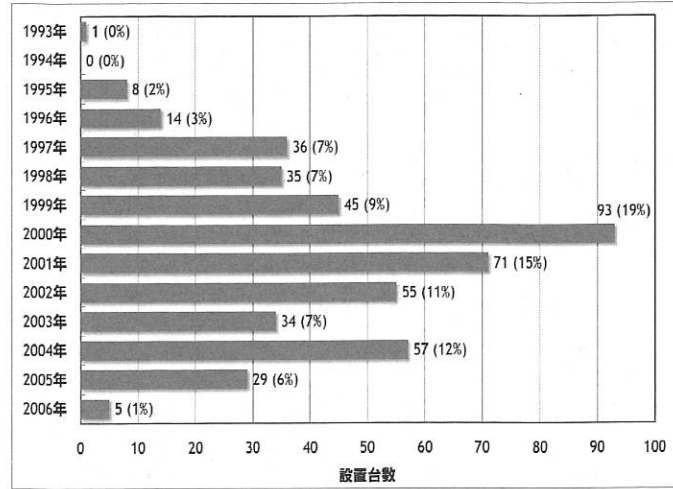
  

A社	B社	C社	D社	G社	X社	Y社	その他	合計
238台 (49%)	80台 (17%)	54台 (11%)	35台 (7%)	10台 (2%)	30台 (6%)	13台 (3%)	23台 (5%)	483台

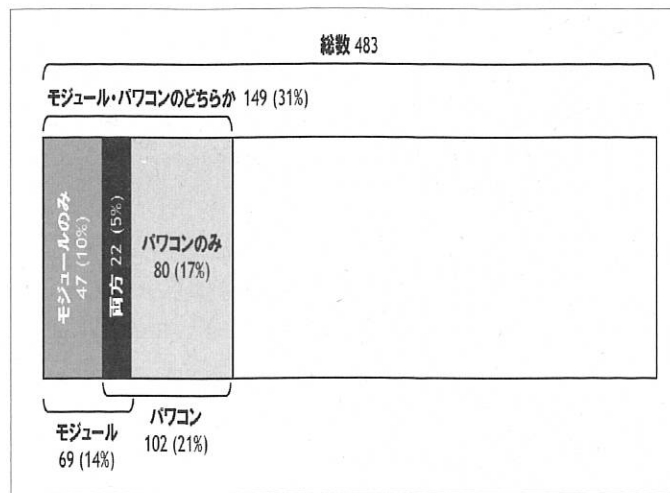
資料1 分析対象としたPVの属性(表1-1、1-2、1-3を参照)



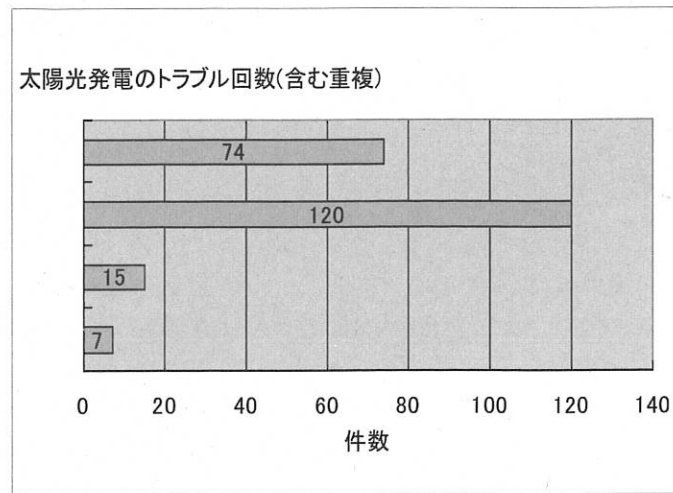
資料2 PVの設置地域  
全国対象ですが、関東地域が6割以上を占めています。



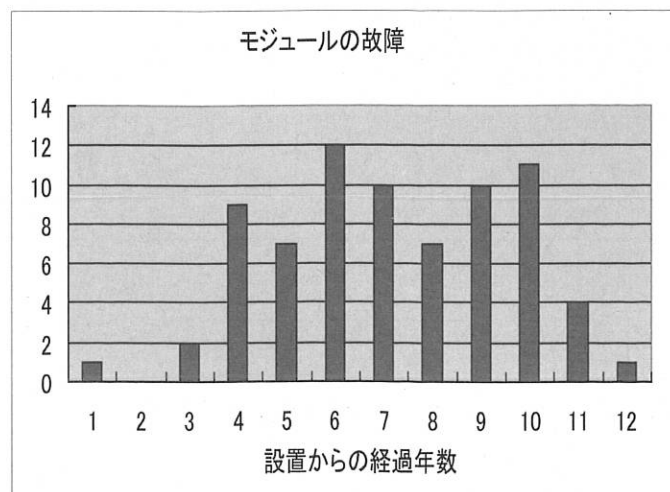
資料3 PVの設置年の分布  
データが3年以上あるものを対象としたため2006年までの設置サイトが対象になっています。



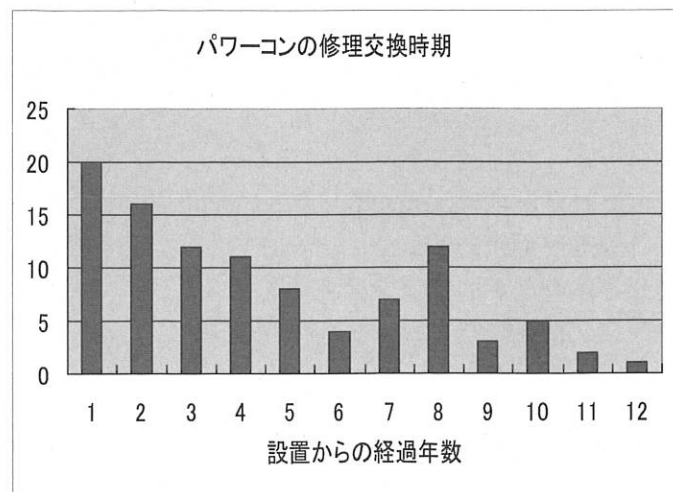
資料4 PVパワーコン・モジュールの交換・修理のあった件数  
今回の調査で資料8とともに最も重要で驚くデータを示している資料です。モジュール不良がこれまでの調査報告と比べて多く、メンテナンスフリーの根拠が崩れる結果を示しています。



資料5 部財別不具合の状況  
最も多い故障はパワーコンディショナー不良です。配線不良は工事等のトラブルも少なくありません。施工士認証制度の必要が問われます。



資料6 PVモジュールの故障発生時  
モジュールは4～5年を過ぎた時点から不具合が発生する傾向を示しています。



資料7 PVパワーコンの故障発生時  
パワーコンは初年度から不具合が発生する傾向が読み取れます。

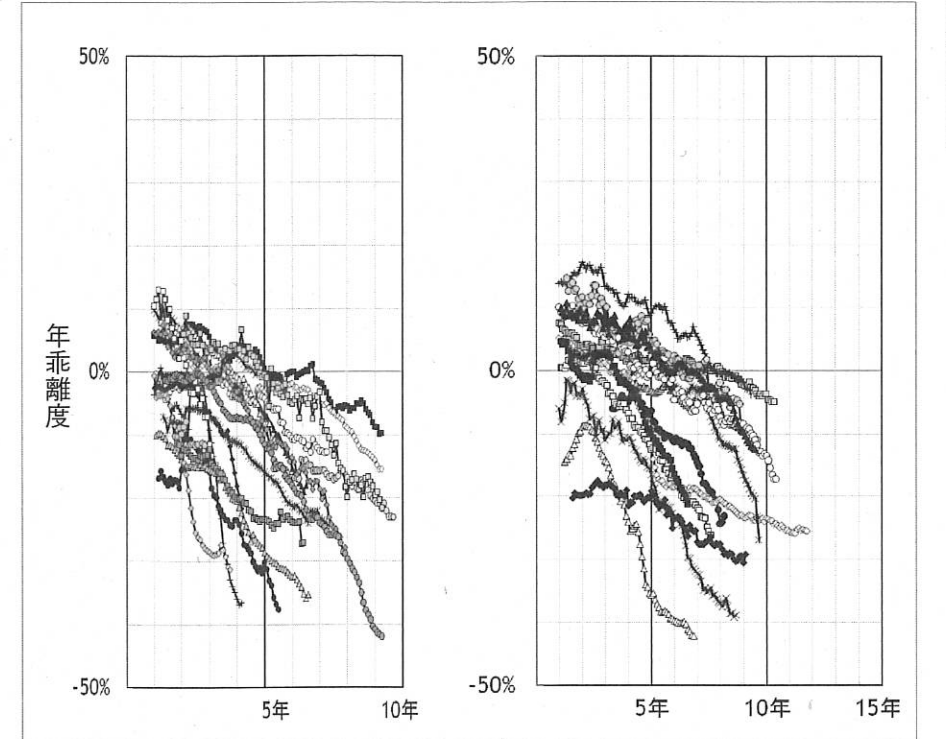
設置者自身が実データを記録し続けて初めて判明した内容です。

●問題点

1) 資料8の左側の図はPV設置者が発電量に不安を感じ、メーカーに対処を訴えモジュール交換となった18の事例をPV-NetのPV健康診断で毎月の予測発電量と実際の発電量の乖離度(%)をプロットしたものです。つまり本来発電すべき発電量からズレが大きくなっています。10年保証期間内だけでなく設置後5年以内でも当初の発電量に対してほとんどが10%以下となり、中には40%近くも低下しているサイトが多くあることを示しています。

2) さらに衝撃的なのは右側の図です。PVモジュールの交換履歴のないサイトで発電量報告で低下が認められる14事例の乖離度のプロットです。本人がまだ気付かず、発電に問題意識のないサイトです。結果内容は左側の図とほとんど変わらない様相を示しています。このことは経年劣化を起しているサイトが潜在している可能性を示しており、放置できない問題をはらんでいます。

3) 「期待寿命20年です」という



資料8 モジュールの経年劣化  
このなかで特に注目されるのがモジュールの経年劣化の実態です。

「寿命」は、メーカーにも業界にも明確な規定(保証書明示)がありません。この点も大きな問題であり、政策の遅れを意味しています。  
4) 経年劣化は(仮)寿命をオーバーした保証期間と発見時がずれることから補償問題として紛争の種になる可能性があります。これ

らの防止措置も早急に必要です。  
5) 今回の調査では対象としていませんが、PV-Netの相談内容から判断して、系統の電圧出力抑制問題は設置者に気が付かれないままに多発している可能性があります。売電料金に絡むので問題は大きいといえます。

### 3 私達PV-Netからの提案

- 1) 環境価値の高い個人住宅PVの普及を最大限進めることを求めます。
- 2) メンテナンスフリーとなるようにPVメーカーの製造技術向上を早急に求めます。
- 3) それまではユーザーに誤った認識(メンテナンスフリー)を持たせない表現にするよう求めます。
- 4) モジュールの発電量の経年変化があらゆるユーザーにわかるよう、PVシステム内に装備し表示することを求めます。
- 5) トラブルの事前防止を図るための寿命の定義や、保証書の内容明確化、販売設置事業者の説明義務履行の徹底を指導政府機関及びPVメーカー等の関係者間で調整して下さい。このときに必ずユーザーの意見が反映されるよう、対応してください。
- 6) 大量普及する前に故障率の大幅低減、経年劣化防止、メンテナンス体制の実現を図ってください。
- 7) 全国のPVユーザーの皆さんも政府やメーカー任せにせず、賢いユーザーとしてPVの良さとともに発電量の測定記録収集など、問題点の把握に努めてください。
- 8) 中立なPVの相談窓口として、NPO法人太陽光発電所の相談窓口を活用することを提案します。

務履行の徹底を指導政府機関及びPVメーカー等の関係者間で調整して下さい。このときに必ずユーザーの意見が反映されるよう、対応してください。  
6) 大量普及する前に故障率の大幅低減、経年劣化防止、メンテナンス体制の実現を図ってください。  
7) 全国のPVユーザーの皆さんも政府やメーカー任せにせず、賢いユーザーとしてPVの良さとともに発電量の測定記録収集など、問題点の把握に努めてください。  
8) 中立なPVの相談窓口として、NPO法人太陽光発電所の相談窓口を活用することを提案します。

追記)  
記者会見に臨むにあたって事前にPVの業界団体である太陽光発電協会(JPEA)に上記のデータの説明と改善を要求しました。いたずらにクレーマーとしての告発ではなくPVが健全に業界をあげて発展するための提案になるように配慮してのものです。記者会見後は言い放しにならないよう、主要PVメーカーの担当者により細かい該当メーカーのデータ内容を説明し、具体的な改善を求めています。今後の各メーカーの動向を引き続きフォローしていきます。  
(事務局 都築 建)

## 太陽熱温水器の現実 ～私的実績を中心として～

わが家には設置してから30年以上も故障なく働いてくれている太陽熱温水器があります。実はこれは器材としては2代目です。始めに採用したもの（メーカー不明）は、100リットルのステンレスのタンクが2本並んでつながっていて、それを蒲鉾型に強化プラスチック板で覆ってあるという、まことにシンプルなものでした。

50年前、私が高校生だった頃は、「川崎のチベット」（国際的な差別用語かも？）と言われていたこの地、川崎市麻生区は、冬になると家の北側の地面が30センチほど深いところまで凍土状態になり、当時の最低気温記録はなんとマイナス11℃でした。そのような状況だったので、つないである配管部分が凍結破損し、水漏れが発生しました。構造がシンプルだったため、ひび割れ部分を自転車のチューブでギシギシと巻いて修理完了。さらにしばらくの間はそのまま役に立っていました。当時は屋根には乗せず、家の北側の陽の当たる場所に素人作業で足場パイプを打ち込み、台座も横にパイプを乗せてその上に器材を座らせる、というこれも簡単なものでもした。しかし数年使用しているうちにゆ

がみが生じてステンレスタンクとパイプをつないだ部分に亀裂が入ってしまったため、引退してもらい（十分元は取れました）、現在のY社の製品を農協（現JA）から購入し、同じ場所に設置しました。

庭の柿の木が大き

くなり、日照時間が不足してきて温度があまり上がらなくなったため、結婚後に増設した2階の屋根に移動してもらいました。移動工事により漏れが生じるかもしれないことも承知の上で引っ越しを決行しましたが、高度差が大きくなった分、水の出具合いが良くなり、さらに使用勝手も向上、懸案していた漏れも生じることなく現在も元気に太陽熱を蓄えてくれています。ちなみに、形式は最も単純な「水道栓を開けて水を満たし、閉じて暖まったお湯を下へ落とす」というだけのもの。夏は60℃以上まで暖まります。麻生区の冬の最低気温も、設置後はマイナス3℃ほどまでしか下がらず、凍結防止のヒーターを設置はしてあるものの、電源をつないだことはありません。

数年前、次女がオーストラリア人と結婚し、アデレードに住むことになりました。晴天率の高いオーストラリアだし、価格も手頃な太陽熱温水器を設置しない手はなからうということで、結婚祝いプレゼントしました。アデレードにもメーカーはあり、温度が高



オーストラリア・アデレードの家の屋根に娘を登らせて撮ったもの。メーカーは女だてらに屋根に登って不良工事を指摘したため、ビックリしてしっかり修理したそう

くなり過ぎるので温度調整のできる機器にしました。娘夫婦はガス代が浮いたとあって喜び、当方も結婚祝いとしては安い買い物だったので、お互いが満足しています。昨年、孫娘と初対面のためオーストラリアを訪問した際に屋根の機器を点検したところ、パイプの継ぎ目から漏水を発見。さらに精査したところ、不良工事であることが発覚。メーカーに工事のやり直しをさせました。メーカーは平身低頭だったそうです。あわせて贈っていただいた雨水ストックタンクも点検したところ、工事の手抜きを発見。修理させました。ちなみに、雨水タンク5トン入り2基と太陽熱温水器を併せても贈与税が全くかからない範囲内の金額で済んでいます。

太陽熱温水器は太陽光発電設備に比べればはるかに単純な設置工事です。設置工事がしっかりできていれば、メーカーがかわいそうだと感じるほど、太陽熱の恩恵を受け続けられそうです。初期投資の少ない太陽熱温水器は、まさにオススメです。

（神奈川県 鈴木昭男）

## ポストイン・ポストルック中間報告

前回会報に折り込み、会員の皆様に寄せていただいた「ポストイン活動調査」の中間報告をします。

手紙やメール、FAXなどでお返事を下さった方は現在13名、その数に少々寂しさを感じています。これまで組織部として「ポストイン」を会員拡大の重点活動として位置づけてきましたが、あまりご理解をいただけなかったということでしょうか。それとも、実際には取り組んでいるがこの調査に応えるのはどうも…とお考えの方が多かったということでしょうか。

今回の調査に応じていただいた方の中には、

a) 毎年年賀状や同窓会通知などに太陽光発電やPV-Netのことを入れて送っている（この方は自作の冊子やデータなどの膨大な資料を送ってくれましたが、そうしたものを友人知人に数え切れないほど送っているとのことです）。

b) 今年度518軒、通算では1,838軒のポストに自作の呼びかけ文やリーフレットを入れ、名簿をマップ化しているすごい方。

c) 通算150軒にリーフレット、市や温暖化センター作成の資料などを使用しポストインしている方。

d) フォーラムなどに合わせ、参加への呼びかけ、自作の手紙、リーフレットなどを120軒に投函。直接話ができの方がフォーラムに参加、入会してくれたとのこと。フォーラムなどとセットにした取り組みが有効と思う。

e) 9軒にリーフレット、集案案内を入れた。

f) 10軒ほどにリーフレットを投函した。設置メリットを強調するリーフレット（特に健康診断）が必要。また、ポストインからホームページへいざなうように。

g) 2軒ほど口頭で説明した。

h) 自分のPVカルテを見せて、説明している。

i) 5軒ほどポストインし名簿を地域に挙げてある。その後のフォローがどうなっているのか、わかると弾みがつく。

j) 他に3名の方から、「ポストイン活動を初めて知った。これから始めたい」「今後は勧誘に努力する」「温暖化を考えるとずっと真剣に考えねば」「車窓から屋根のパネルが

見えるとうれしくなる」——など。

ポストインした名簿を地域に提出している方、事務局と地域両方に提出している方、ご自身のみで管理している方、と分かれました。この点は、最低でも地域に提出していただき、フォーラムなどで活用できるようにして欲しいです。

この調査はまだ中間的なものと思っています。

a) の方のように年賀状などの郵便物を利用してPRすることも有効だと思います。このような取り組みをしている方は他にもいるでしょう。また、d) の方のように、地域でフォーラムなどを開催する際、会員以外には多くの場合ポストインしているのではないのでしょうか。でもそれが調査に反映されていないと考えるからです。

さらに j) の3名の方は、ポストインという「身近で誰にでもできる」活動があることを知りこれから取り組む、という本当にうれしい回答を寄せてくれました。

このような方は「リーフレット送付願い」などの連絡を事務局でも私田中宛（090-8542-4070）でも結構です。どんどん寄せてください。

（組織部座長 田中東紀男）

## ◎九州事務所移転のお知らせ◎

これまで九州の事務所は、佐賀県の事業との関係で佐賀市にありました。県の事業終了とともに佐賀県における国の補助事業の窓口業務も、仕分け問題で廃止されました。九州の交通事情を考慮すると福岡

岡への事務所設置がかねてより求められていました。自宅を事務所に提供していただけるご好意もあり、以下の住所に新事務所を開設しました。九州会員の拠り所として、みんなで盛り上げてください。

NPO法人 太陽光発電所ネットワーク(PV-Net)九州地域交流会  
事務局 〒814-0113 福岡市城南区田島6-6-3  
TEL/Fax : 092-861-4109



朝日新聞社が取材に来た時に、南側のマンションからプロのカメラマンが撮影したもの

## 無視できない2011年度経産省概算要求予算

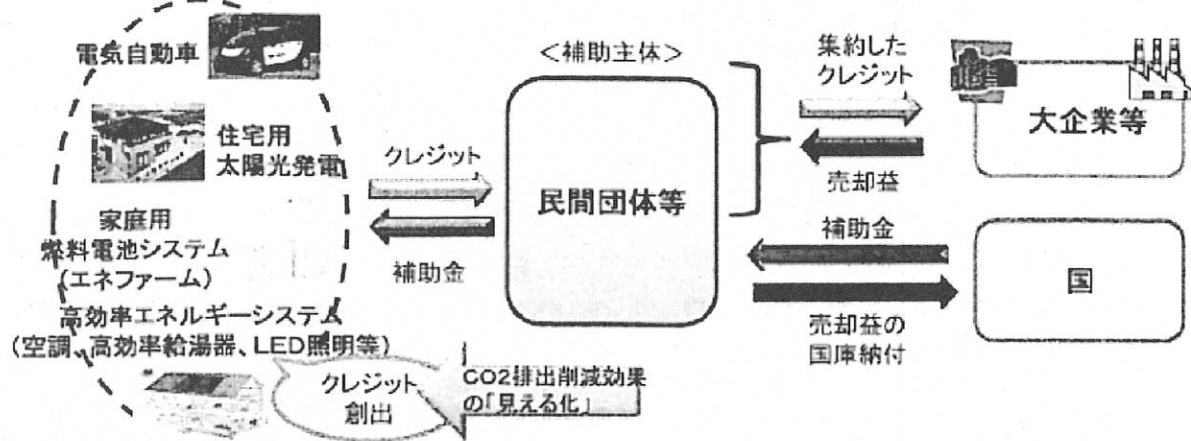
猛暑の8月、経産省から「平成23年度資源・エネルギー関連概算要求の概要」が出されました。このなかで無視できないばかりか耳を疑うような政策の予算要求がされています。

名目は『低炭素型社会構造への転換に向けた新エネ・省エネの推進とエネルギーの高度化利用』といい、その中の「自立のかつ環境調和的なエネルギー供給構造も実現」として1,077億円が要求されて

います。その大半を占めるのが「再生可能エネルギーの導入拡大」(889億円)で、さらにその半分以上が「太陽光発電の導入促進(511億円)」です。そして住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金が429億

### 〈個人向け導入補助金と国内クレジット制度との連携〉

本補助事業を含む個人向け省エネ・新エネ機器導入支援事業を通じて削減されたCO<sub>2</sub>排出量の国内クレジット化(見える化)を図ることで、ユーザーの環境貢献の意識を喚起する。また、創出されたクレジットを集約し、国内の排出削減の成果を国内で活用することにより、国内での資金循環を促し、環境と経済の両立を図る。



## 投稿 PV健康診断専用会員=インターネット会員創設について提案

太陽光発電は補助金の復活、余剰電力の新買取制度施行、若干のシステム価格低下、環境意識の向上もあって普及が進んでいます。しかし、一方で発電量をチェックしていない設置者も多いと推定され、故障・不具合があっても気がつかない状況となっています。

このようなユーザに発電量のチェックを促しPV健康診断利用を呼びかけるのはPV-Netの社会的使命と考えます。故障の早期発見・対応ができれば、本来の売電料収入を確保できるという個人のメリットはもちろん、国家的備蓄とも言える太陽光発電設備を限りなく100%に近い状

態に維持することができ、国全体としても大きなメリットとなります。

そこで、インターネットでPV健康診断サービスだけが利用できる専用会員(仮称:インターネット会員、会費:1,000円)を募ってはどうかと考えます。会費は安くても大幅な会員増が達成できれば、会の財政安定化にも寄与できるのではないかと考えます。

イメージとしては、正規会員とのサービス・バランスを考える必要があるため、1. 会報は発送しない 2. 総会での議決権は付与しない 3. 相談室を利用する場合は別途有料を考える——という感じです。

システマ的には、事務局の管理負担が極力発生しないように申し込みをPV-Netのホームページからできるようにする必要があります。申し込み情報と入金情報が簡単にわかるような仕組みも必要です。ホームページの改修費用は、現在の財政状況を考えると難しいかもしれませんが、共同事業化の可能性も含めて検討してはどうでしょうか。

今まで深い議論をして来なかったと思います。また他にもいろいろな問題や課題があると思います。この機会に広く会員の皆さんに活発な議論をしていただき、ぜひ声を上げていただきたいと思います。メール、FAXは事務局へお願いします。会員の掲示板への意見投稿も歓迎します。

(千葉地域交流会 宮下朝光)

円で、昨年度より28億円増となっています。ここまではいいのですが、添え書きがついています。

……住宅用太陽光発電システムを設置する者に対して、その設置に要する経費の一部を補助する。本補助により創出された国内クレジットを集約し、国内の大企業等による活用を促進することにより、環境と経済の両立を図る。……

左ページの図のような仕組みですが、要するに補助金を出す条件として環境価値を国が全部取り上げる、というものです。現在は少なくとも自家消費分の環境価値は補助をもらっても設置者のものです。それでグリーン電力証書として売ることができます。しかし個人が持っているメリットをなくすばかりでなく、このような仕組み

が崩壊することも予想されます。担当部署に問い合わせても曖昧な答えしか返って来ません。

買取制度等を巡っては、知恵を出し合ってきました。これまでの議論は何のためだったのか、と大きな疑問が生まれます。PV-Netとして今後の予算の成り行きを皆さんに伝え、対処していきます。大いに注意が必要です。

## 「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」の紹介

イオングループ各店(ジャスコ、サティ、マックスバリュ、など)では、「お客さま第一を原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という企業理念のもと、地域への環境・社会貢献活動の一環として「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」を展開しています。このキャンペーンは2001年より実施されており、毎月11日を「イオン・デー」とし、レシートを黄色に変え、レジ精算時に受け取ったレシートを、地域のボランティア団体名が書かれた投函箱に入れていただき、レシート合計金額の1%相当の物品を地域のボランティア団体に還元し、その活動を助成するものです。投函箱には各団体の活動内容が記載されており、支持する団体を選択することが可能となっております。レシートの集計・助成は年2回行われ、2009年度年間の実績では、約2億6,786万円の物品が28,926団体に支給されました。

助成を受ける団体に登録するには、以下の3つの基準が設けられています。

・基準1: 活動分野、下記のいずれかの分野で活動している。

- ①福祉の増進を図る活動
- ②環境保全・環境学習の推進を図る活動
- ③街づくりの推進を図る活動
- ④文化・芸術の振興を図る活動
- ⑤子供の健康と安全の増進を図る活動

・基準2: イオングループ店舗近隣にて過去6ヶ月以上定期的な活動実績があり、活動分野の目的を遂行しながら、今後も継続的に活動できる団体。

・基準3: 「団体登録申込書」を提出でき、必要に応じて「活動報告」ができる団体。

上記の基準をPV-Netに当てはめた場合、地域交流会はすべて問題なく適合しているだけでなく、近隣グループやエリア交流会でも充分適合させられます。団体の登録はイオングループ各店舗単位で行われますが、1団体はイオングループ内の1店舗にしか登録できず、チェック機能もしっかりしています。また、上記基準に対する審査もきちんと行われ、会則・役員名簿・活動報告の提出はもちろん、実際の活動現場へ視察に来ることもあります。イオングループ各店では、イオン・デーでの黄色いレシート投函率を競っており、



投函を進めるために各店ごとにいろいろな仕掛けをしています。最近では少なくなったようですが、登録団体の人が街頭募金のように団体のたすきをかけ、投函箱を持ってレジの前に立つ風景もみられました。また、年間投函数の少なかった団体は、翌年他の団体と入れ替わる、ということが多くの店で行われています。そのため登録団体はホームページや配布物でイオン・デーの買い物とレシートの投函をお願いしています。助成はイオン各店でのみ使えるギフトカードで支給され、2ヶ月間で使い切り、使ったレシートのコピーと使い終わったギフトカードを返却する必要があります。

参加に対する審査の厳しさや、支給されるギフトカードの使い勝手の悪さがありますが、日常活動の支援として有効なものです。各地域交流会が積極的に参加することをお勧めします。

(埼玉地域交流会 國井範彰)



## 地域の動き

### 茨城地域

～茨城世話人会内の動きについて～

#### 1) 新会員獲得

最近PV設置者が急増し喜ばしいことですが、それにもなっているいろいろな問題が発生しています。

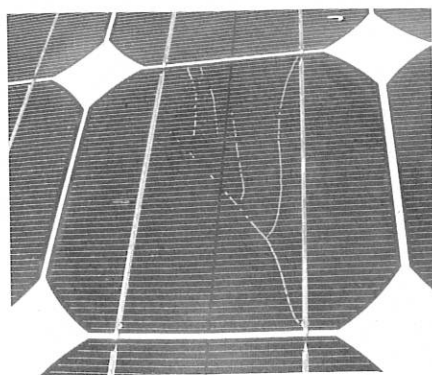
過日NHKで新設にともなう問題点を取り上げ、注意を喚起した番組が放映されましたが、その際に苦情の相談先としてPV-Netが紹介されました。

そのためPV-Netに相談が殺到したということですが、その中に水戸の方がいました。「訪問販売業者から購入したが、価格や発電量が妥当なものかどうか、設置方法に問題がないか不安で、消費者生活相談センターなどに相談したが、専門的なことがわからず困っている」という相談でした。

訪問して実地調査した結果、性的にも価格的にも妥当なものである旨を説明しました。その結果安心してもらい、即入会していただきました。

#### 2) K氏宅のパネル交換

産総研・加藤氏のPV-RessQ!!調査により、①配線プラグの不備 ②ホットスポットによる発電能力低下 が判明しました。本調査報告書と共に不備をメーカーに申し入れた結果、①不具合プラグを交換 ②性能低下パネル11枚の交換をしてもらいました。



パネルに見つかった不審な模様

また、交換しない数個のパネルにもセルに不審な模様があったので調査させたところ、セルのクラックであることが判明したため、結局残りの13枚のパネルも交換してもらいました。その結果、発電性能が当初のレベルに復帰しました。これは設置が2000年なので、ちょうど10年目でした。

#### 3) その他

a 前記事の訂正 (会報20号、茨城地域)

・ 神栖市PV助成金制度での応募数「約1,000件」は「75件」に訂正します。

b 世話人募集：有力メンバーO氏が抜け、ますます減少傾向。当会は自由、闊達に楽しみながら活動しています。意欲ある方の参加を希望しています。

連絡先：前川淳治

アドレス：group@pv-ibaraki.net  
(茨城地域交流会 前川淳治)

### 千葉地域

～過6月は環境月間、出展で多忙～

毎年6月は環境月間のため、出展が集中して1年で最も忙しい。

今年も6月5、6の両日は「ちばし手づくり環境博覧会 (千葉市科学館・きぼーる)」へ出展。同5日はエコフェアいちばら (市原市民会館) にも世話人が分散して出展対応しました。19日は「浦安市環境フェア」(新浦安駅前広場) 出展と続きました。

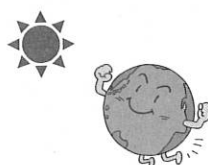
今回の目玉は何と言っても「CIS太陽電池モジュール」のお披露目。シリコンを使わない銅化合物のため、パネルの価格低下が期待されている製品です。某ルートで寄贈を受け、モノ作り名人の平間さん



CISモジュールとミニハウス

がCISパネルとバッテリーを組み合わせ、ミニハウスの自前電力として使用できるシステムを作り上げました。実はこれには伏線がありました。昨年の浦安市環境フェアでは自家発電機を使用して各ブースへ電力を供給していましたが、市民から「騒音、排気ガスが環境フェアとしてふさわしくない」との意見が出て、今年は電気なしとなってしまいました。これでは折角のミニハウス展示も単なる置物になってしまうということで、前述の構想が浮かんだという次第です。前日の予報では当日は雨の確率50%と心配されましたが、普段の行いが良い(?)せいか、朝方雨が止んで天気は回復傾向になり、昼前からは強い日差しも差し込んでCISモジュールは電力源としてその能力を十分発揮してくれました。ところで、太陽光発電がそれなりに普及してきて物珍しさがなくなり、一般の方の関心がちょっと薄れてきたのではないかと最近感じています。その一方で、ブースを訪れる人の質問はより具体的になり、実際に設置を考えている人もかなりいました。

(千葉地域交流会代表 宮下朝光)



### 埼玉地域

～埼玉地域交流会の動き～

#### 1. 県内初の市民共同発電所設置完成に協力

2008年7月、県内有志が集まり「埼玉お日さまクラブ」が発足。わが世話人会を代表して國井さんが参加、技術的なアドバイスを担当しました。

設置場所を「与野ひなどり保育園」に決定し、寄付金募集、グリーン電力基金、埼玉県に補助金申請を行うなど順調に進み、3.6kWhの太陽光発電所が完成し、2010年2月27日に盛大な式典・点灯式が行われました。私たち世話人も受付などの裏方で参加。第2、第3の市民共同発電所を建設すべく、現在狭山市で桑原さんが参加し、自治会館屋上をお借りして3.5kWhを設置すべく進行中です。この件については、國井さんから前号に詳しく報告がありました。

#### 2. 第8回埼玉地域フォーラム

同フォーラムを3月13日(土)川越市民会館および周辺の施設で「第9回環境まちづくりフォーラム・埼玉」の分科会として、会員35名の参加のもと成功裏に終了できました。

この件についても、桑原さんから前号で詳しく報告がありました。



見学会にて

#### 3. 本年度の見学会について

5月23日(日)、群馬県内の、吉岡自然エネルギーパーク(北群馬郡)と、電力中央研究所赤城試験センター(前橋市)の2か所を見学しました。川越駅集合、解散で30名参加、車中は昨年同様、植村さんの名ガイドで楽しい一時を過ごすことができました。

吉岡自然エネルギーパークでは、休日でも案内はありませんでしたが、風力発電システム(最大出力300kWh)、太陽光発電システム(最大出力20kWh)、天狗岩水力発電システムでは、農業用の水路の水を利用して、かんがい期は4台、非かんがい期は1台で年間一般家庭625軒分の電力を発電しているそうです。この日は電中研の一般公開日。雨天のため参観者は少なかったのですが、電中研紹介コーナーで全般の説明を聞いた後、興味ある実験(野菜工場、魚工場ではフグの養殖、人工雷、太陽電池と自転車発電でGO!)など、忙しく見学してきました。

(埼玉地域世話人代表 松岡洋右)

### 神奈川地域

～2009年度後期活動報告(2010年4～6月)～

#### 1. 見学会で「TDK甲府工場」「北杜サイト」を訪ねる

2010年4月15日(木)、「TDK甲府工場 太陽光発電システム」と「大規模電力供給用太陽光発電系統安定化等実証研究北杜サイト」のメガソーラーシステムを日帰りで見学しました。中型バスを貸し切った今回の参加者は28名で、全員が会員とご家族でした。

まずは2009年度新エネルギー大賞・審査委員長賞を受賞している、山梨県アルプス市の「TDK・甲府



TDK甲府工場の屋上のシステムを見学

工場」を見学しました。

会議室でのレクチャーで詳しい説明を受け、またCSR担当部長の森野さんがわかりやすい説明をしてくださいました。その後屋上のシステム(100kWのシステムが3ヶ所に分かれて設置してあるので合計300kW)を案内してもらいました。

三菱・シャープ・京セラの三種類の多結晶シリコン太陽電池の特性評価と、30度の傾斜で設置したシステムと平面設置のシステムとの比較検討もしました。系統連系のインバーターは三相3線、交流202V、定格出力300kW(100kW\_3台)変換効率93.0%というシステムでした。

昼食は会議室をお借りしましたが、おしぼりとみそ汁、またコーヒーやお茶の接待を受け、一同感激しました。

次の見学場所である「北杜サイト」へはそこから30分ぐらいかかりました。広大な敷地に何列にも太陽光パネルが設置されていました。最初は小高いところに案内されて、システム群を一望しながら



北杜サイトにて



説明を受けました。その後は個々のシステムの様子を見て回りました。

世界のさまざまな太陽電池を集めて設置している2メガワットの大規模システムです。太陽追尾式のシステムや、角度を変えられるシステムなどもありました。

このシステムは北杜市に今年3月に完成したばかりで、NEDOの委託事業として『NTTファシリティーズ』が運用しています。

北杜市は日本一日照時間が長いところだそうで、北杜サイトの主な特徴と研究テーマは、

1、世界初となる複数の系統安定化技術を具備した国内最大級のパワーコンディショナー、国内初となる66kV特別高圧連系のシステム。2MW級の大規模太陽光発電システム

2、導入の種類としては世界一となる27種類の大規模太陽電池モジュールの比較試験

3、環境性に優れた先進的架台などがあげられます。

詳しい研究テーマや途中経過なども聞きたかったところです。

2. 「tvkハウジング プラザ横浜」で太陽光発電導入・セミナーに参加

5月8日(土)、いつも行っている太陽光発電に関する説明会を行い、相談コーナーを開きました。今回は出席者が少なく、残念でした。

3. 「アジェンダの日2010」に出展

6月5～6日、神奈川県アジェンダ推進センターのならびにtvk(神奈川テレビ)の「2010収穫祭」が開催されました。例年は秋開催ですが、今年は横浜で開かれるAPEC首脳会議のため、前倒ししての開催となりました。場所は昨年と同じ日本大通りで、本庁通り

を挟んで横浜公園側と県庁側に分け、歩行者天国とし、両側の歩道部分にテントを張っての会場でした。今年の出展団体は83ブース。

PV-Net神奈川地域交流会はこれに毎年出展しています。今年の内容は、ジオラマ「ソーラータウン」、「太陽光発電でドン!」、「ミニ・ソーラーハウス」、発電実験「噴水」、ミニソーラーカーなどの各種ソーラーグッズ、「太陽光発電なんでも相談コーナー」でした。

初日の朝は薄く黒い雲の覆う、前夜の雷雨に続きにわか雨が心配される空模様で始まりましたが、やがて日も射し、会場の日本大通りは人も多くなっていきました。関心を集めたのは薄曇りでも吹き上げる噴水で、「お日さまが見えないのに発電するのはすごい」などと感心していました。また、子どもたちをひきつけて離さないのがソーラータウンを走る電車です。一方、子どもも大人も挑戦してみるのが、太陽光発電と手回し発電機との力比べをする「太陽光発電でドン」のコーナー。今年も発電量やCO2削減量などの証明書に加えて、キャンデーをプレゼントしました。初日69人、2日目は74人の方が参加されました。

2日目の日曜日は、前日にもましてよい天気気温もどんどん上がりました。歩道の本陰に行くといひんやり心地よい空気が流れていました。



「アジェンダの日2010」にて

朝10時前から参観者が押し寄せ、人出は最高でした。子どもたちがソーラーカーなどのグッズを持ち出し人ごみの中で平気で走らせたため、親たちを引き留めていました。

暑さのため、われわれスタッフものどが渇き疲れ気味でしたが、機械もダウン、前日は異常なかった「太陽光発電でドン」のデータ表示用モニターが、直射日光にさらされていたためか、動かなくなったり、子どもたちに人気の電車が午後遅くにはうまく走らなくなったりと、スタッフを更にイライラさせていました。

我々が目指す太陽光発電の普及に関しては、関心を持ってくれる人は非常に少ないという印象でした。まして地球環境、温暖化には他人ごとのように深刻さは感じられず、説明がむなしかったです。

なかには熱心に聞いてくる方や、政府の施策を批判したり、「25%削減できるの? 新築住宅には全部新エネルギー設備を義務化すればよい。でなければ建築許可を出さないようにしてほしい」と意気込む人や、日本が世界に出遅れていると憤る人に「われわれもそのことを7年間も主張し続けているのです」とつい力説して声が枯れてしまいました。

「うちはマンション。つけるにはどうしたらいい?」「マンションだから無理…」という人が多く、ここでも集合住宅の問題に積極的に取り組まなければならないと改めて痛感しました。

4. 「さがみはら環境まつり」に参加、太陽光発電説明会も

6月27日(日)、市の体育館を中心に相模原市政令指定都市になったお祝いも兼ねて環境まつりのイ

ベントが盛大に行われました。地域交流会・近隣グループ中心で出展、「太陽光発電でドン」「噴水」などが賑わっていました。

一方、午前中には環境情報センター2階の活動室で、太陽光発電説明会も行いました。

今後は7月25日(日)『「太陽光発電お役立ち講座」～後悔しない設置のポイント教えます～』を相模原市環境情報センター学習室で説明・相談会を行う予定です。

(神奈川県地域交流会 横谷公雄)

### ● 群馬地域 ●

#### ～群馬地域活動報告～

PV-Net会員の仲間の皆様、いかにお過ごしでしょうか。

群馬地域交流会の梅澤です。この原稿を書いている現在は梅雨明け間近、PV-Netの総会も間近です。

何かと慌ただしい毎日です。

参議院選挙も終わり、何か不透明感が増すばかり。また、地球温暖化による大雨で大きな被害に遭われた地域の皆様のご苦労は如何ばかりかと。

被害に遭われた仲間の皆さんがいない事を願うばかりです。

混沌とした毎日ですが、群馬地域交流会恒例の「春の上信路 見て・聞いて・食べて・飲んで・温泉浸かって『自然の恵み』まるごと頂きます! 群馬地域交流会『自然の恵み体感』見学会」を去る4月18日～19日、1泊2日で開催しました。

今回は、長野県小諸の仲間の皆さんに見学先まで出向いていただいたり、宿のお世話までしていただいたりとお世話になりました。

「知恵と勇気」をもらったなあ～と、つくづく感じています。

「手打ちそば」も絶品でした。

仲間の友情と新しい知識とを合わせて、私たちの活動に対する自信と勇気を一段と膨らませた見学会でした。

さて、それ以降の群馬地域交流会ですが、世話人さんたちの「本業」が多忙を極めていることから「開店休業」状態です。

本業を大切に。このスタンスで家族とも地域社会ともうまく付き合い、活動を長続きさせるためにも少々お休みです。各自色々な機会をとらえて少しずつエネルギーを充填しています。

近々恒例の見学会のご案内ができるかと思えます。一発芸に全精力を傾注しすぎかと冷や汗ものですが、少しずつ手を広げられればいいかな…とも考えています。

またその節は、多くの仲間の皆さんの参加をお待ち申し上げます。

猛暑が続いております。我々のエネルギーの源「太陽」が少々疎ましく思えるほどですが、うまく乗り切って収穫の「秋」を迎えたいと思います。

(群馬地域交流会 梅澤耕一郎)

### ● 山梨地域 ●

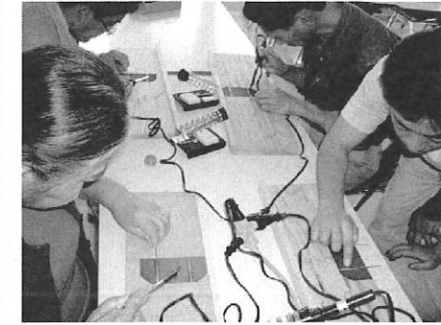
#### ～山梨地域活動方向～

山梨地域交流会は、2010年度に入ってから2度世話人会を開催しました。

4月の世話人会では、主に昨年度のまとめと今年度の計画について検討しました。

今年度の計画については、太陽光発電所ネットワークが関わって作った地域共同太陽光発電所3ヶ所の公民館の活用を強めること、PVネット・PVグリーンの県内への周知、他団体との協働をかかげて担当を決めました。

7月9日の世話人会では、主に



手作り太陽光発電パネル教室の様子

今年度の取り組み・担当の再確認、ライトダウン甲府バレーの参加内容の検討、共同発電所公民館の活用について検討しました。

共同発電所の1つである岡公民館では、共同発電所の太陽光発電の電気を使って、手作り太陽光発電パネル教室を2回開催することになりました。他の公民館も、地域共同太陽光発電所を啓発し、できるだけ利用していくことが確認されました。

その他、以下の2点を報告します。

- ・サッカーJ2で7月現在2位のヴァンフォーレ甲府のホームスタジアムである小瀬陸上競技場を、究極のエコスタジアムにすることを目指す「小瀬エコスタジアムプロジェクト実行委員会」が発足し、山梨世話人会は賛助会員として参加することが確認されました。

- ・「やまなしグリーンニューディール」の一環として、「山梨県クリーンエネルギー賦存量調査検討委員会」が発足し、芦澤がメンバー加入しました。8月末～9月初旬に、山梨県主催の共同発電フォーラムを行う予定です。

(山梨地域交流会 芦澤公子)



## 地域の動き

### 静岡地域

～新地域代表に「長澤志郎」氏～

静岡地域交流会は、発足以来山下正道さんが地域代表を務めてきました。

しかし今春、健康上の理由から代表辞退の意向が出され、世話人会で議論し慰留してきましたが、ご本人の意思が固く、最終的に6月30日の世話人会にて辞任を認め、今後は「相談役」として協力していただくことに決まりました。

PV-Net発展のために8年間の長きに亘りご尽力、またご指導いただきましたこと、紙面を借りてあらためてお礼申し上げます。

さて、その後任は長澤志郎さんに決まりました。

7月20日の世話人会にて、全会一致で長澤志郎氏に代表をお願いしたところ、最終的に快くお受けしていただきました。

長澤氏は、裾野市在住の元銀行員ですが、リタイア後各種ボランティアに参加し活動しています。

現在静岡地域交流会では、近隣グループごとの集会を逐次開催していますが、長澤氏を中心に世話人会が一層団結し、静岡地域交流会がますます発展できるよう頑張っていく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

(静岡地域交流会副代表 田中東紀男)

### ◎新代表 長澤志郎氏「あいさつ」

現在静岡交流会の会員数が全国トップにならんとしています。この実績は何と申し上げても山下前代表の旺盛な責任感と行動力、指導力の賜と考えております。

このような豊富な経験をお持ちの前代表の後任としてははなはだ不安を感じていますが、皆様方のご指導を頂きながら務めたいと思います。

私は平成16年10月に太陽光発電を設置、同時に静岡交流会会員に登録いたしました。以来太陽光発電のもたらす経済効果等を時系列に記録していますが、売電料の倍額が果たした効果は当会発展の大きな原動力になるものと強い期待を持っております。

どうぞよろしく願い申し上げます。

静岡地域交流会世話人会代表  
長澤志郎

### 関西地域

～関西地域交流会から～

全国の皆さんへ…

PV-Netの活動を支えているのは、全国から会員さんになってくれている人たちがいるということです。それを地域の世話人さんがパイプ役になり、理事会、東京のセンターとつないで一つのネットワークとしての動きを作っていきます。地域に交流会が無く、世話人さんがいないと、なかなか全体の動きがつかみにくくなります。会員にはなったけど……年3回の会報は送られてくるけど……さて、何をこのネットワークに期待したのかしら？

と、ふっと振り返ってみる方もあるかと思えます。

そのとき、太陽光発電に、自然エネルギーに、何を期待したのかしら？ と振り返ってみてください。PV-Netはその仲間を増やし、皆の力でエネルギーを持続可能な形へと舵取りしていく、世界でも貴重な団体です。

関西地域交流会は、そのようなメッセージをニュースやイベント、フォーラムを通して発信し続けています。皆さんの地域に交流会が無く、世話人さんがいなければ、



どうぞ関西地域交流会のイベントやフォーラムにご参加ください。

また、呼んでいただければ交流目的、そして観光もかねてこちらからも出向きます。私たちは年に何回か「会員巡り」と称して、関西の会員さんを訪問して本当に貴重な交流をつづけています。お世辞抜きでPV-Netの会員さんは皆個性豊かで、生活を楽しんでおられます。

ネットワークはフットワークです。顔の見える関係で、より豊かなPV-Netにしていきましょう。

(関西地域交流会 岸本康子)

### 京都地域

～京都地域交流会の活動報告～

#### ①2009年度の活動

京都の地域世話人会と代表で企画・調査し、講師依頼などすべて手作りで、PV-Net関西メンバーの支援を受けた行事を企画しました。

第1回フォーラムは、京エコロジーセンター見学、環境展示、世界の環境問題を学び、京都府庁温暖化対策室から太陽光パネル設置補助の実態を学びました。

また、会員の年間の発電量など、ユーザーの視点で意見交換を行いました。

第2回見学行事は、「京セラ本社」

で、メーカーの視点から学びました。

第3回フォーラムは余剰電力買取制度の発足から「太陽光発電は、いま…」と題して、産総研の櫻井氏から、「太陽光パネルの基礎知識」「日本や世界の現状」「グリーン電力の環境価値」「今後の太陽光発電の可能性」などを学びました。

この取り組みは環境保全活動助成金を受け、10のメディアを通して広く市民に広報しました。

第4回見学行事は京都近郊に2,400枚の太陽光パネルを設置し、環境配慮、省エネ対策に取り組む工場見学を行い、環境問題、省エネ対策に取り組む大切さを学びました(レンゴー-新京都事業所見学)。

#### ②2010年度の活動

世界的な広がりをみせている太陽光発電設置を日本政府も強力に推奨し、普及しています。その中

で、設置トラブルやメンテナンス、不完全な稼働の有無などの相談が増えたり、また業者の売り込み攻勢に押されて困惑することも増えるでしょう。

そうしたなか、活動の重点は太陽光発電の日々進歩する現状の理解と自宅のPV管理と保全。そして、PV-Net7年目の利用者視点でのトラブル相談、メンテナンスのノウハウを生かした相談業務への対応となります。すべては市民への広報とし、会員も学ぶ研究会としたいです。

さらに、条件を整えば次世代送電網(スマートグリッド)が整備される関西文化学術研究都市や京田辺市、木津川市、精華町で太陽光発電システムを1,000箇所整備するほか、電気自動車350台導入の現場を見学したいです。



レンゴー-新京都事業所見学会にて

また諸外国の次世代送電網のことや新しい太陽光発電の実態について、専門家のお話を聞く機会を持ちたいと考えています。

会員の太陽光発電利用の体験談や、余剰電力買取制度発足と我が家の省エネ生活、また全量買取制度のオプション解説、日々新しく展開される太陽光発電に関する研修を計画しています。

(京都地域交流会 中村和歳)

## PV-Net川柳 第十六回

今年の夏は、史上でもっとも暑い夏と言われているが、皆様のPVのご機嫌は如何ですか。

太陽光発電の余剰電力の買い取り価格(東京で48円)で、懐が潤ってウハウハの御仁もおられることは、うれしい限りでお喜び申し上げます。

・節電は 晴天好日 限られる

屋根のパネルが稼働しているときは、電気を使わないこと。なぜなら、倍額の電気代だから。古典落語・芝浜に「稼ぐに追いつく貧乏なし、屋根のパネルは福の神」の一節があるが、われわれPV設置者のことを念頭に置いたのだろう。真偽不明だが朝日新聞の世論調査によると、「この欄をご覧の方は多いのだが、投稿する人は少ない」とのこと。

責任を感じている川崎の五右衛門さんの、今回の傑作。

・13年 パワコン預金 おろす頃  
いつまでも PV故障 無いわけ無い

お見事だ。総会当日の朝日新聞にPV-Net提供の記事「太陽光発電の3割12年以内に故障」を受けたものだろう。私は五右衛門さんの預金とは違っ

て貯金だが…  
次は、大型発電所を所有している川口のhansamさんの余裕の句だ。

・エネルギー 家産家消で 11年

地産地消の向こうを張って、「家産家消」と言う言葉を、取りあえずPV-Netで普及したいと言う。hansamさんは、電気代を払っても毎月2万円が東京電力から振り込まれるという。余剰電力代が2万円とは驚きだ。どんな大きなお屋敷にお住まいなのだろうか。

どん尻に控えしは、「埼玉・WIXY Zさん」である。

・わが屋根も 貯金箱かと 皮算用  
暑い夏 昼は図書館で 蓄財す

幾ら買い取り価格が倍額になっても、全発電量が自家消費ではどうにもならない。貧乏人(?)が皮算用しても、徒勞に帰すばかりだ。そこで、自家消費しなければ、屋根のパネルが貯金箱になると気づいたのだろう。図書館が休館日にはどうしているのか気になるところだが…

次号でも、お会いしましょう。会員各位のご参加をお待ちしています。

(担当・普及広報部 松田廣行)

2010年度第1回臨時理事会

- 日時：2010年4月23日(金) 17:00~19:00
- 場所：PV-Net事務局
- 参加者：理事13名(うちスカイブ参加7名)、事務局3名

<総会について>

次年度の活動方針・目標として、拡大三役会議(理事3役と部会理事とで構成)にて話し合った全体の活動方針素案に沿った提案内容の確認を行いました。大方針としてはユーザーの活動目線に立った組織作りを行っていくこと、それを踏まえた上で重点目標と課題としては1.相談事業の充実、2.省エネ事業の継続と発展、3.PV-Green事業の継続と展開、4.組織及び財政基盤の強化、5.データベースの拡充、6.地方自治体との協働を掲げることになりました。

予算についてはキャッシュフローを確認しながら、繰越予定額の確認や次年度収入の目処などが説明されました。

<その他情報共有>

PV-Netが全面協力の上、朝日出版社からMOOK本「わが家も太陽光発電」が出版されるとの報告及び今年も再生可能エネルギー世界展示会(Re2010)へ出展する旨が報告されました。

2010年度第4回理事会

- 日時：2010年5月29日(土) 11:30~14:30
- 場所：PV-Net事務局
- 参加者：理事12名(うちスカイブ参加3名)、オブザーバー1名、事務局3名

<総会議案書について>

地域、部会から出された活動の振り返り(1号議案)を確認の上、

次年度の目標・活動方針(2号議案)について再度話し合いが行われました。また、佐賀事務所閉鎖のため、定款の従たる事務所の変更も確認されました(5号議案)。予算(4号議案)については事業仕分けの影響を受け、09年度受託していた事業のうち、半分に廃止されたため次年度の予算規模は4分の1程度になる見通しが示されました。一方で補助金、助成金など未確定な要素が多く予算作りが難航しているとの報告がありました。

<部会報告>

・相談室：地域から相談員として推薦された方々が新相談員として承認されました。一方で対外的に高い信頼性を要求されるPV-Net相談員の選出については、相談員推薦の条件の見直しや任命のルールづくりなどを相談室で再討議するよう要請がありました。

<その他情報共有>

・港区高原跡地の利用について：2011年3月より家賃・固定費が発生するが、現在PV-Netに収入の目処はなく、当該事業をどのように位置づけ事業として進めていくかが理事会の検討事項となっていました。理事が現地を確認した上で検討をした方が良いとの結論に至り、次回の臨時理事会(6/28)は小諸のPV-Net小諸事務所で開催することが決まりました。

・三井物産環境基金：PV健康診断を主軸にした地域密着型相談活動及び相談員育成制度の構築のための事業申請(3年事業)を行ったとの報告がありました。

・全量買取に関するパブコメについて：再生可能エネルギー全量買取制度に関するオプションが提示され、パブコメが募集されているが、環境価値の帰属については一

切触れられていないため、地域会員へ意見提出を呼びかけてほしいとの依頼が事務局長よりありました。

2010年度第2回臨時理事会

- 日時：2010年6月28日(月) 16:30~18:30
- 場所：PV-Net小諸事務所
- 参加者：理事13名(うちスカイブ参加4名)、オブザーバー2名、事務局3名

当日はPV-Net小諸事務所に9名の理事が集合し、地元会員の岡本一道さんの案内のもと、港区高原学園跡地の見学を行いました。

<総会議案書について>

活動の振り返り(1号議案)については複数箇所体裁を整えた上で、承認されました。2010年度目標・活動方針については(2号議案)、PV-Netの「目標や役割」が不明瞭なため地域活動の舵取りがしにくく、また現時点で明確な目標と役割を打ち出せない場合は団体が衰退する時期にきているのでは、という懸念のもと意見交換が行われましたが、明確な結論には至らず、検討事項として持ち越されることとなりました。従たる事務所の定款改訂部分(5号議案)については、新たに登録する事務所を実態に合わせた内容にするかどうかについて結論が出ず、後日電子メール上で審議を行うことが決まりました。決算(3号議案)、予算案(4号議案)については最終資料の提出がなく説明のみとなり、最終(案)は電子メール上で審議することに決まりました。

<部会、その他の報告・意見交換>

組織部：先の会報に同封したポストイン・ポストルックの実態調査

について、名簿は各自が持ち地域で活用されていない場合が多いとの報告が行われました。

港区高原学園跡地利用について：下見を行った上で、感想を交えながら意見交換が行われました。さまざまな自然エネルギーの展望を実態として示せる「場」ができるのは素晴らしいという面で意見の一致を見たものの、財政面についての不安も一致し、財政面・管理面の懸案のため手を引くべきとの意見も出た一方で、PV-Net全体で取り組むのではなく携わりた

相談室

PV-Net相談室と(独)産業技術総合研究所(以下産総研)加藤主任研究員と進めていた、PV-Netに蓄積されているデータの分析結果がまとまり、7月23日PV-Netから報道関係者宛に記者会見で発表しました(発表内容はP6~9とPV-Netホームページに掲載)。それを受けて7月24日には朝日新聞、8月3日には産経新聞に掲載されました。新聞見出しは「太陽光発電の3割、12年以内に故障」というものです。この新聞記事について、相談室の見解とフォロー活動についてお知らせします。

上記内容は、会員の皆さんがトラブル履歴として登録して頂いた太陽光発電モジュールとパワーコンディショナについての案件を集計したものです。さらに言えば、今回のデータ分析によりこれ以外にもモジュールに不具合の可能性があることが指摘されています。このような結果を受けて、相談室ではメーカー各社と結果に対する認識、実態の把握状況、対応策などの話し合いを行ってまいりました。その結果、急激に普及が進んだ一

いメンバーを中心にプロジェクト形式及び別会計で実施していくのであれば可能性があるという建設的な意見も出ました。携わり方については、今後も理事会で話し合いながら決めていくことになりました。

2010年度第3回臨時理事会

- 日時：2010年7月24日(土) 11:00~11:30
- 場所：PV-Net事務局
- 参加者：理事13名、事務局3名

<議案書について>

電子メールでの審議となっていた決算(3号議案)、予算(4号議案)について内容の確認のため財政部及び事務局長より説明がありました。

<山口地域交流会の設立について>

山口地域交流会の承認願いが承認されました。

(事務局 伊藤麻紀)

時期に製造体制の不備、技術的未熟などで品質にバラツキがあったこと、その後それらを改善し現在のものは品質確保に万全を期し充分自信のあるものであることなどを確認しました。産総研の加藤主任も最近の品質については認めています。とはいえ、すでに設置された会員諸氏の設備についての不安は残ります。

データ分析の結果から不具合の可能性のある方には、地域相談員から対応策のお知らせをしております。すでに交換処置をした方もいますが、すべて無償で行われています。今回のデータ分析対象者

はPV健康診断に3年以上継続的に月々の発電量を登録している方ですが、数ヶ月の発電量の登録でもある程度の不具合の可能性の診断はできます。ぜひPV健康診断のデータ登録にご参加ください。

今後、太陽光発電の大量普及が進むことや、上記のような事態に対応するため、5月29日の理事会で地域相談員増員の承認をいただき、下記のごとく体制を強化しました。どんなことでも気軽に相談してください。

相談窓口は毎週木曜日に開設しております。

(PV相談室長 國井範彰)

種別	担当地域	現相談員(任期更新)	新規任命者
主任相談員	全国	本多一民	
		平間稔夫	
		湯浅直樹	
		國井範彰	
地域相談員	東京	川原山浩一	高柳良大 馬場 裕 田中 稔 都甲公子
	神奈川	横谷公雄	古峰聖治 岡野庄太郎 伊藤美木子
	埼玉	松田廣行	松岡洋右 植村実敏 大木唯弘 桑原紀仁 戸井田利夫 北 義秀 小川孝史 板井孝子
	千葉	岸本次夫	新美健一郎
	群馬	松本岩樹	立木健之
	茨城	小西健司	大塚寿生
	静岡	森 純男	山下正道
	中部ブロック	吉田幸二	
	関西ブロック	南里 弘	
	九州ブロック	都筑修三	

※現在の地域相談員は「地域統括相談員」として、地域相談員の取りまとめ役とします。

**☀️ ご寄付、どうもありがとうございました！**

平間稔夫 鈴木昭男 奥山道江 貴傳名哲康 大友峯男 武井瞭 今野一  
橋本初江 松澤恭子 早乙女定次 小関光二 栗原稔 横山英俊 菊地憲  
幸 森崎要造 岸本康子 杉本美智夫 金子武夫 神田昭延 白井伊征子  
渡辺孝 川本健治 寺尾健男 中村和歳 吉田光平 中田芳雄・タカ子  
佐藤俊夫 芦澤泰徳 渡辺孝 荒井富雄 関沢ひろみ (その他匿名4名)  
活動へのご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

**☀️ エコプロダクツ2010 出展ボランティアスタッフ大募集!!**

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2010」に、今年も出展し、太陽光発電システムのユーザーならではのアドバイスや情報を発信します。PV-Netからの提言の成果や太陽エネルギーをめぐる現状、相談活動やグリーン電力証書などについて展示します。

- 日 時：12月9日～11日 9:30～18:00 (準備・後片付け含)  
設営日は午後のみ
- 会 場：東京ビックサイト  
(詳細はこちら⇒ <http://www.eco-pro.com/eco2010/>)
- 主な内容：来場者対応、設営など
- 連絡先：PV-Net事務所 (下記)

※上記日時で、4～5時間/1日以上展示ブースに滞在できる方を募集いたします(休憩含)。都合の良い1日～でOK。会員同士や来場者との交流も楽しみに、お気軽に参加ください。

**☀️ PV-Net活動を応援して下さる、賛助会員を募集しています！**

太陽光発電所ネットワークでは、活動趣旨に賛同し、運営を支援して下さる団体・企業・個人の皆さんを募集しています。賛助会員名は当団体のホームページ(以下PV-Net HP)、賛助会員一覧にも掲載されます。詳細はPV-Net HPをご覧になるか、もしくは事務局までお問い合わせ下さい。

	年会費(入会金※1)
企業・団体	3万円/1口 1口～※2
個人	1万円/1口 1口～

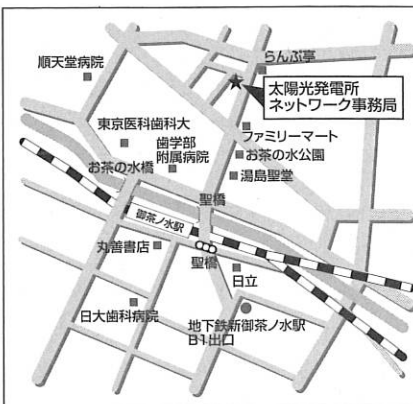
※1：初年度は入会金のみで年会費は不要。  
※2：年会費は1口以上でお申し込み下さい。

ペンギンのはばたき

◆10/10、代々木公園の遥か上空に渡り鳥の群れが飛んでいた。子供も大人も目を凝らして、渡り鳥の行くへを見守っていた。なんだか不思議な光景だった。(い)  
◆奈良を訪れ重厚な歴史と文化を実感。岐路に立つ現代文明に思いをはせつつ環境NPOで働いた約10年を振り返り、自分らしく社会に関わろう

と再認識。PV-Netも「らしさ」を発揮するとき。(て)  
◆PV不具合記者発表の反応で最も早かったのは設置業者。新聞・雑誌・TVだけでなくホームページやブログでも取り上げられ反響大。活動成果と責任痛感。(都)

Editor's Notes



特定非営利活動法人  
**太陽光発電所ネットワーク**(略称:PV-Net)  
〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10  
湯島ビル202号室  
〈交通のご案内〉  
①JR/地下鉄御茶ノ水駅「聖橋口(秋葉原駅側)」より徒歩5分  
②地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より徒歩5分  
TEL 03-5805-3577  
FAX 03-5805-3588  
URL : [www.greenenergy.jp](http://www.greenenergy.jp)  
E-mail : [info@greenenergy.jp](mailto:info@greenenergy.jp)

- 〈4月〉
- 3 埼玉地域交流会世話人会
  - 6 山口地域交流会準備会
  - 7 中部地域交流会世話人会  
東京地域世話人会
  - 15 神奈川地域交流会見学会
  - 18 群馬地域交流会 見学会開催
  - 19 群馬地域交流会 見学会開催
  - 23 臨時理事会
  - 25 フォーラム「PV-Net相談室拡充に向けて」  
関西地域交流会 懇親会

- 〈5月〉
- 5 東京地域世話人会
  - 8 埼玉地域交流会世話人会
  - 10 経産省「PVのあり方」打合せ  
日本気象協会打合せ
  - 11 小諸市こもろはす会議
  - 12 東京地域世話人会
  - 14~16 くまがやエコライフフェア2010出展 埼玉地域交流会
  - 20 日本気象協会と日射量測定に関して打合せ
  - 21 福岡地域交流会 福岡市コンベンツ発表会
  - 23 見学会、埼玉地域交流会 電力中央研究所、赤城試験所、吉岡自然エネルギーパーク
  - 29 理事会
  - 31 九州地域交流会、福岡市コンベンツ参加

- 〈6月〉
- 2 東京地域交流会世話人会
  - 5 「エコライフフェア2010」出展 主催環境省  
埼玉地域交流会世話人会
  - 6 「エコライフフェア2010」出展 主催環境省  
普及広報部会
  - 18 気候ネットワーク総会
  - 28 臨時理事会(小諸市)
  - 30 第5回新エネルギー世界展示会 パシフィコ横浜  
静岡地域交流会世話人会

- 〈7月〉
- 1~2 第5回新エネルギー世界展示会 パシフィコ横浜
  - 3 埼玉地域交流会世話人会
  - 7 クールアースデー inさいたま
  - 9 JPEA「PV不具合状況打合せ」
  - 10 山口地域交流会発足集会
  - 17 小諸市PV第1回基礎講座
  - 21 東京地域世話人会
  - 23 「PV不具合状況」記者会見  
財政部会 湯島事務局(ネット)
  - 24 2010年度通常総会

- 〈8月〉
- 7 埼玉地域交流会世話人会
  - 11 東京地域世話人会
  - 12~16 事務局夏季休暇
  - 18 調査研究室発足  
中部地域交流会 名古屋市公会堂
  - 20 PV-Greenコア会議
  - 22 ハウスフォーラムふじみ野PV個別相談会・  
セミナー 埼玉地域交流会

- 〈9月〉
- 1 東京地域世話人会
  - 3 山梨地域世話人会
  - 4 埼玉地域交流会世話人会
  - 5 第1回理事会
  - 6 環境省グリーン電力証書関連入札  
小平市エコフェスティバル出展 東京地域交流会
  - 11 環境省入札説明会  
第4回静岡地域世話人会
  - 17 青森県八戸PV基礎セミナー  
小諸市PV第2回基礎講座  
小諸市基礎講座2
  - 19 太陽光発電フォーラム2010 in ふなばし  
太陽光発電を正しく知ろう
  - 23 九州地域交流会